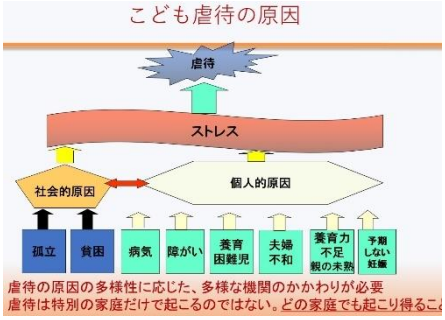
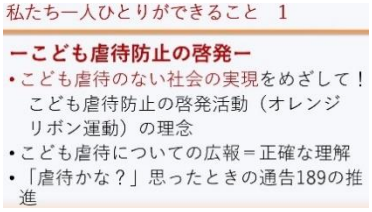
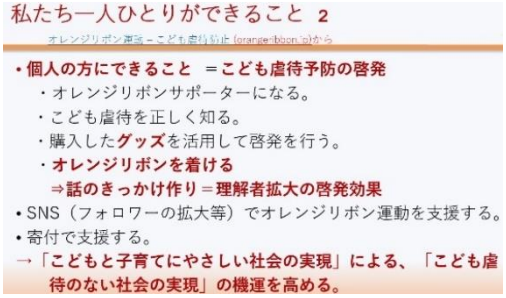
虐待により死亡したこどもは近年では毎年 70 人を超えています。

こども虐待は、貧困や孤立、子育て困難などさまざまな原因により生じることになります。国や自治体は、法律や条例の制定・改正、児童相談所職員の増員、児童福祉施設の拡充、医療・保健、警察等との連携強化を図っています。しかし、行政や専門家の働きだけでこの問題を解決することは困難です。



虐待をした親を責めるだけでなく、そもそも虐待が起きないように「予防」することが大事です。それには、こどもと子育てを支える環境作りが必要であり、市区町村や地域社会が重要な役割を果たします。それとともに、地域で生活する人々による「子どもと子育てにやさしい見守りと支援」が、子育てに悩みをかかえる親にとって救いとなり、子どもの健やかな成長につながります。こうしてこども虐待の予防が図られる、と私たちは考えています。





たとえば、子育て中の親にやさしい言葉やねぎらいの言葉を掛け、こどもをほめたりすることや、駅の階段で子どもを抱えて困っている親のベビーカーを運ぶのを手伝うなど、専門知識や法的権限がなくても、地域の人たちの善意に根差した「ちょっとした言葉かけやお手伝い」が、育児に疲れ困っている親の負担感を減らし、これが虐待の予防につながるのではないでしょうか？

企業や団体においては、その業態や特性に応じて、地域の子育てイベントへの協力、寄付をすることによって、こどもと子育て支援の役割を果たすことができます。さらに社章代わりにオレンジリボンバッチを付けることで、企業活動を通じてこども虐待の啓発につなげることもできますし、ホームページにオレンジリボンのバナーを貼ることも効果的な防止活動です。

このような企業も巻き込んだ、地域の人々と行政が一体になったこども子育て支援は ―長くて遠い道のりですが― 最終的にはこども虐待のない社会につながる道であると思います。これからも皆様とこども虐待のない社会の実現に向けて、一人ひとりができることをして、こども虐待防止の活動をしていきたいと思っております。

私たち児童虐待防止全国ネットワークは、オレンジリボン運動を通じて「こどもと子育てにやさしい社会がこども虐待のない社会につながる」をキャッチフレーズに、これからも活動を続けていきます。どうぞ皆様方の御協力と御支援をよろしくお願い申し上げます。